

授業改善プラン

1 年 教科 (数学)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
数学への関心・意欲・態度	1 学期後半から宿題の提出率が低下した。宿題の量にも問題があると思われる。	宿題の量の他、出題する問題も精選し、提出後のチェックを簡易化する。	2 学期後半からやや授業に対する集中力が低下した。	宿題のチェックがあまりできていなかったのので3 学期は徹底したい。	
数学的な見方や考え方	文章読解力、応用力が必要な問題を解こうとする意欲が低い。	文章読解力をつける反面、解答までの解き方のヒントを与えるような授業内容を考える。	文章読解力、学習した内容を応用する力が相変わらず低い。	計算だけでなく、実践に即した問題もできるだけ多く授業に取り入れる。	
数学的な技能	分数・小数の四則演算でもできない生徒がいる。	補習のほかに、宿題でも少しずつ出題しながら授業を進める。	計算力の向上を目指していたが、クラス内の計算力の差が大きく開いてしまった。	計算力の低い生徒に対して、できるだけ時間をとって教えていきたい。	
数量、図形などについての知識・理解	知識理解の点で未だ理解が低い面も分野によって多少みられる。	宿題を工夫し、計算問題だけでなく、穴埋め式の問題も加える。	アンケートでも図形を苦手とする生徒は多く、授業でも特に質問が多い。	空間図形は特に分かりにくいので、実際の展開図などを手で感じさせる授業を心がける。	
授業改善の検証方法	2 学期定期試験や授業での生徒の積極性の向上を評価対象とする。	生徒の授業での挙手、発言の積極性、定期テストで判断。	2 学期の生徒アンケートから客観的に判断。	新学期の計算コンテストや独自のテストによる判断。	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9 年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	交換授業などで生徒・ 教師間の連携を深める。	小学生までの学力を理 解して上での授業展開 を今後していく。	授業の5 分間テストや 計算テストなどで生徒 の実態把握を図る。	クラス内の学力差をど う改善していくかが課 題。	

授業改善プラン

2 年 教科 (数学)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
数学への関心・意欲・態度	宿題を工夫し、計算問題だけでなく、穴埋め式の問題も加える。	宿題の量の他、出題する問題も精選し、提出後のチェックを簡易化する。	2 学期後半からやや授業に対する集中力が低下した。復習確認テストも芳しくなかった。	授業のスピードが速くなり、わからないまま進むことのないようにしたい。	
数学的な見方や考え方	文章読解力、応用力が必要な問題を解こうとする意欲が低い。	文章読解力をつける反面、解答までの解き方のヒントを与えるような授業内容を考える。	1 学期同様、文章読解力、学習した内容を応用する力が相変わらず低い。	文章からこれまで学習した内容をいかに使っていくかを判断できる授業をしていく。	
数学的な技能	分数・小数の四則演算や1年生の基礎計算が未だ定着していない面が見られる。	補習のほかに、宿題でも少しずつ出題しながら授業を進める。	計算力の向上を目指していたが、クラス内の計算力の差が大きく開いてしまった。	計算能力は授業でも徹底してやっていくが、補習を行う。	
数量、図形などについての知識・理解	知識理解の点で未だ理解が低い面も分野によって多少みられる。	宿題を工夫し、計算問題だけでなく、穴埋め式の問題も加える。	アンケートでも図形や証明を苦手とする生徒は多く、授業でも特に質問が多い。	2 年生の三角形の合同の証明などは授業毎の5分間テストなどで続けていく。	
授業改善の検証方法	2 学期定期試験や授業での生徒の積極性の向上を評価対象とする。	生徒の授業での挙手、発言の積極性、定期テストで判断。	計算力は常に授業の5分間テストで行い出来具合もチェックする。	1 年生の内容を忘れないように、授業毎で確認しながら進める。	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	交換授業などで生徒・ 教師間の連携を深める。	小年生までの学力を理 解して上での授業展開 を今後していく。	学力差、計算能力の差 の改善のため、補習を 行う。	学力の2 極化を改善す るための補習や計算プ リントなどを行う。	

授業改善プラン

3 年 教科 (数学)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
数学への関心・意欲・態度	宿題を工夫し、計算問題だけでなく、穴埋め式の問題も加える。	宿題の量の他、出題する問題も精選し、提出後のチェックを簡易化する。	2 学期の後半から入試を意識した生徒の反応が多くなった。	意識が先にいってなかなか実力が伴わない生徒のケアが重要。個別に対応していきたい。	
数学的な見方や考え方	文章読解力、応用力が必要な問題を解こうとする意欲が低い。	文章読解力をつける反面、解答までの解き方のヒントを与えるような授業内容を考える。	1 学期同様、文章読解力、学習した内容を応用する力が相変わらず低い。	1, 2 年の内容である図形・証明が苦手な生徒が多く、復習を入れた授業展開を心がける。	
数学的な技能	分数・小数の四則演算や1・2年生の基礎計算が未だ定着していない面が見られる。	補習のほかに、宿題でも少しずつ出題しながら授業を進める。	方程式やルートの計算の他、基本的な図形の面積・体積などの計算力向上も課題。	1, 2, 3 年生を通した総合的な問題を今後はできるだけ多くやっていく。	
数量、図形などについての知識・理解	知識理解の点で未だ理解が低い面も分野によって多少みられる。	宿題を工夫し、計算問題だけでなく、穴埋め式の問題も加える。	図形に関しては特に指導が必要。	基本から応用まで、図形と証明に力を入れていく。	
授業改善の検証方法	2 学期定期試験や授業での生徒の積極性の向上を評価対象とする。	生徒の授業での挙手、発言の積極性、定期テストで判断。	図形と証明の正答率が低い。証明に関しては型を学習させたい。	穴埋め問題などで数を多くこなしながら、慣れさせていく。	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	交換授業などで生徒・ 教師間の連携を深める。	小年生までの学力を理 解して上での授業展開 を今後していく。	9 年間の最終学年とし て必要な知識の習得は 必ず行う。	入試や高校を見据えた 学習を増やし、活かす 数学授業をしていく。	